

九州大学の高大連携シンポジウムについて

平成 15 年度と 16 年度に、地域連携特別事業として、福岡県教育庁教育振興部高校教育課の共催を得て九州大学高大連携推進専門委員会が高大連携シンポジウム⁽¹⁾を主催しました。

平成 17 年度は、福岡県教育委員会の共催を得て、前 2 回の企画・運営にあたった九州大学高等教育総合開発研究センター⁽²⁾が高大連携シンポジウム 2005 を主催することになりました。

教育をめぐる高大連携は、社会的課題を伴っています。高大連携における大学としての検討課題は、1) 知識基盤社会を構成する市民の養成において大学が果たす役割についての検討、2) 理数系離れと指摘されている学生の教育についての検討、3) 大学の教育に対する姿勢を示すことになる情報提供の検討といったことです。いずれの課題への取り組みにおいても、高大連携は起点でも結実点でもある重要なものです。

前 2 回の高大連携シンポジウムの特徴は、高校と大学の連続性よりも不連続性に視点をおいてきたことにあります。不連続性に着目したのは、その乗り越えかたが、学びへの適応を試行錯誤する生徒や学生にとって重要なことであり、かつ、学びの動機づけに深く影響しているからです。生徒と学生の学びをめぐる対話に、社会の変化に応じた高校教育と大学教育の課題を見出し、教育のあり方をめぐる提言につなげたいと考えます。

(平成 17 年度) 高大連携シンポジウム 2005 の趣旨

日時：九州大学オープンキャンパス開催の 8 月 4 日(木)と 5 日(金) 13 時 30 分から 15 時
場所：九州大学箱崎キャンパス 五十周年記念講堂

第 2 回の高大連携シンポジウムでは、「大学生からみた高大連携の課題」というテーマのもとで、九州大学の学生が入学して遭遇した、高校までの学び方との不連続について語りました。適応的な学びにたどりついた学生もいれば、戸惑いの最中の学生もいました。高校生たちが、大学生たち歩んでいる適応過程についての話に耳を傾け、それぞれの違いが何に由来しているかについて考えるきっかけづくりを、平成 17 年度の高大連携シンポジウム 2005 の目的として継承します。

高大連携シンポジウム 2005 は、「学びをめぐる対話」をテーマにして、高校生たちの問いに、九州大学の学部生と大学院生が、学びの体験を踏まえて、率直に応えるというかたちをとった相互啓発の場を設けます。参加者それぞれの学びがより適応的なものになると期待しています。生徒や学生の対話に耳を傾ける教員にとっては、高校と大学の連携や教育改善に向けて、課題の明確化を推し進める機会になると考えます。

(1) 15 年度と 16 年度の高大連携シンポジウムの報告書は、以下のホームページに掲載。

<http://mail.rche.kyushu-u.ac.jp/~rdche01/koudai/index-renkei.html>

(2) 高等教育総合開発研究センターの役割については、九州大学「全学教育」ホームページが、その概略紹介となっている。

<http://mail.rche.kyushu-u.ac.jp/~rdche01/index-j.html>